

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11105895 A**

(43) Date of publication of application: **20.04.99**

(51) Int. Cl.

B65D 33/38
B65D 30/16
B65D 47/06
B65D 83/00

(21) Application number: **09284631**

(71) Applicant: **KEIHAN CELLOPHANE KK**

(22) Date of filing: **30.09.97**

(72) Inventor: **NAITO ISAO**
YOKOYAMA YOSHIKI

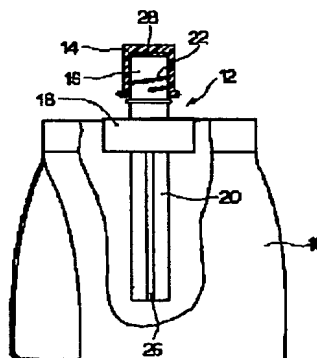
**(54) PACKING CONTAINER PROVIDED WITH
TAKING-OUT JIG**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a packing container capable of enhancing the efficiency of packing work by increasing the packing speed into a container and having a taking-out jig simple in structure and easy to mold.

SOLUTION: The taking-out jig 12 attached to the opening part of a container main body 10 formed into a bag shape from a flexible sheet material is constituted of the cylindrical taking-out port part 16 protruding to the outside of the container main body 10, the insertion part 18 connected to the taking-out part and having the passage communicating with the taking-out port part formed thereto to be fixed to the container main body in a liquidtight state and the shape holding member 20 extended into the container main body from the insertion part to form a rod shape and having rigidity.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-105895

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月20日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	F I	
B 6 5 D	33/38	B 6 5 D	33/38
	30/16		30/16
	47/06		47/06
	83/00		83/00
			F
			T
			G

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-284631

(22) 出願日 平成9年(1997) 9月30日

(71) 出願人 391013461

京阪セロファン株式会社

京都府京都市右京区西院月双町5番地

(72) 発明者 内藤 勲

京都市西京区大原野西竹の里町1丁目8-10

(72) 発明者 横山 新樹

京都市西京区山田出口町32-5

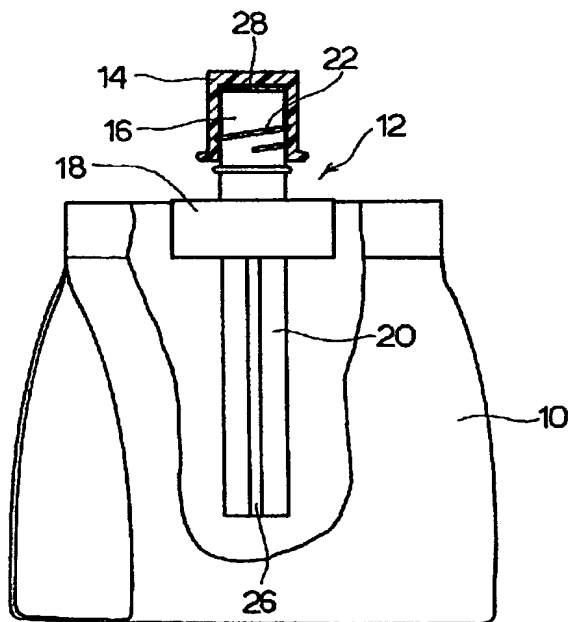
(74) 代理人 弁理士 間宮 武雄

(54) 【発明の名称】 取出具付き充填容器

(57) 【要約】

【課題】 容器内への充填速度を大きくして充填作業の能率を向上させることができ、取出具の構造が簡単でその成型加工が容易である充填容器を提供する。

【解決手段】 可撓性シート材で袋形態に形成された容器本体10の開口部に取着される取出具12を、筒状をなし容器本体の外部へ突出した取出口部16、取出口部に連接され取出口部に連通する通路が形成されて容器本体に液密に固着される挿着部18、および、挿着部から容器本体の内部へ延設され棒状をなし剛性を有する補形部材20から構成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 可撓性シート材によって開口部を有する袋形態に形成された容器本体と、筒状をなし前記容器本体の外部へ突出した取出口部、および、この取出口部に接続されとともに取出口部に連通する通路が形成され容器本体の前記開口部に挿入される挿着部を有し、前記挿着部が容器本体に液密に固着される取出具とからなる取出具付き充填容器において、棒状をなし剛性を有する補形部材を前記挿着部から前記容器本体の内部へ延設させて前記取出具が構成されたことを特徴とする取出具付き充填容器。

【請求項2】 取出口部が円筒状をなし、補形部材が、前記取出口部に対応する円筒の周面の一部をその軸線方向に沿って直線的に切除した形状を有する請求項1記載の取出具付き充填容器。

【請求項3】 挿着部と補形部材とが、別々に成型されて一体化された請求項1または請求項2記載の取出具付き充填容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、スポーツ飲料、果汁飲料等の液体飲料やゼリー飲料などの流動性を有する内容物を充填し、喫飲時などに内容物を簡易に取り出すことができる取出具付き充填容器に関する。

【0002】

【従来の技術】可撓性を有する袋状の容器本体に取出具を挿着し、液体飲料やゼリー飲料などの流動性を有する内容物を容器本体内部に充填し、喫飲時などに取出具を通して内容物を簡易に取り出すことができるようにした容器として、例えば実公平2-21399号公報や実公平7-4230号公報、特開平8-133308号公報などに開示されたものが知られている。

【0003】実公平2-21399号公報や実公平7-4230号公報に開示された液体充填容器は、可撓性シート材で形成された上方開口の袋状容器本体と、口部、接合部および導管部を有し導管部が袋状容器本体の内部空間に延在するように袋状容器本体の開口部に固着される取出装置とを有し、取出装置の導管部の、袋状容器本体の開口封着部分に近い部位に開口を形成した構成を有している。この容器では、取出装置をストローとして利用する場合には、口部に口を付けて吸い込むと、可撓性を有する袋状容器本体の内面によって導管部の開口が閉じられ、導管部の下端口より内容物が吸い上げられる。また、取出装置を注ぎ口として利用する場合には、袋状容器本体を傾けると、導管部の開口が内容物の取入口となっており、袋状容器本体内部の内容物が導管部の開口を通過して口部へ流れ出ることにより、内容物の全部が取り出される。

【0004】また、特開平8-133308号公報に開示された液体用容器は、上記と同様に、可撓性シート材

からなる袋状の容器本体と、導管部が容器本体内部に延在するように取付け部が容器本体の縁部に密封状に固着された取出具とを備え、取出具の取付け部内に導管部が挿通され、導管部と取付け部との間に液体の流通用間隙が形成された構成を有している。この容器では、取出具をストローとして使用する場合には、取出具の上端部を吸い込むと、その初期時に液体と共に流通用間隙を介して容器本体内部の空気が吸引された後、液体のみが導管部を介して吸い上げられる。また、取出具を注ぎ口として使用する場合には、取出具が下向きになるように容器本体を傾斜または反転させると、容器本体内部の液体が流通用間隙を介して流出することにより、液体の全部が迅速かつ確実に取り出される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】上記したように、取出具の付いた従来の充填容器は、いずれも取出具（取出装置）がストロー状の導管部を有している。このため、袋状の容器本体内部へ取出具を通して内容物を充填する場合、特にゼリー飲料などのように粘性のある内容物を充填するときには、単位時間内に導管部内を流れる内容物の量が制限されることになるので、容器内部へ内容物の充填速度が上がらず、充填作業の能率が悪い、といった問題点がある。また、特開平8-133308号公報に開示された液体用容器は、取付け部が、取付け部内に導管部が挿通され導管部と取付け部との間に流通用間隙が形成された複雑な構造を有しているため、成型加工が難しく、製造コストも高くなる、といった問題点がある。

【0006】この発明は、以上のような事情に鑑みてなされたものであり、容器内部への充填速度を大きくすることができ、充填作業の能率を向上させることができ、取出具の構造が簡単で、その成型加工が容易であるような取出具付き充填容器を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明では、上記目的を達成するために、取出具にストロー状の導管部を設けないようにし、その導管部に代えて剛性を有する棒状の補形部材を設けたことを要旨とする。すなわち、請求項1に係る発明は、可撓性シート材によって開口部を有する袋形態に形成された容器本体と、筒状をなし前記容器本体の外部へ突出した取出口部、および、この取出口部に接続されとともに取出口部に連通する通路が形成され容器本体の前記開口部に挿入される挿着部を有し、前記挿着部が容器本体に液密に固着される取出具とからなる取出具付き充填容器において、棒状をなし剛性を有する補形部材を前記挿着部から前記容器本体の内部へ延設させて前記取出具が構成されたことを特徴とする。

【0008】請求項2に係る発明は、請求項2記載の充填容器において、取出口部が円筒状をなし、補形部材が、前記取出口部に対応する円筒の周面の一部をその軸線方向に沿って直線的に切除した形状を有することを特

徴とする。

【0009】請求項3に係る発明は、請求項1または請求項2記載の充填容器において、挿着部と補形部材とが、別々に成型された後に一体化されて形成されていることを特徴とする。

【0010】請求項1に係る発明の取出具付き充填容器では、容器本体内の内容物を口で吸い出すときは、取出具の取出口部を吸口として容器本体の内部を吸引する。これにより、容器本体内の内容物は、取出具の挿着部の通路内へ吸い入れられ取出口部を通して吸い出される。なお、この充填容器は、この種の従来の容器とは異なり取出具にストロー状の導管部が設けられていないが、容器本体内には空気が殆んど無いか極めて少量混入しているだけであるので、吸込みの初期時に内容物と共に空気が吸引された後は、内容物のみが吸い出される。したがって、取出具にストロー状の導管部が設けられていなくても、内容物の吸出しにはほとんど支障が無い。

【0011】また、容器本体内から内容物を注ぎ出すときには、取出具の取出口部が下向きとなるように容器本体を傾けあるいは逆さまにして、容器本体の外面を指で押え付けるようにする。これにより、容器本体内の内容物は、取出具の挿着部の通路内へ流入し取出口部を通して押し出され、容器本体内に残留することなく全部が注ぎ出される。

【0012】ここで、容器本体は可撓性シート材で形成されているため、取出具が取出口部と挿着部とからだけ構成されていると、上記したようにして容器本体内の内容物を口で吸い出したり容器本体内から注ぎ出したりする場合において、容器本体内の内容物の量が減ってきた際に、容器本体が取出具の挿着部の端部付近で折れ曲がり、挿着部の通路の入口を容器本体のシート材の一部で塞いでしまう可能性がある。しかし、この充填容器には、棒状をなし剛性を有する補形部材が挿着部から容器本体の内部へ延設されているので、容器本体内の内容物の量が減ってきても、容器本体が取出具の挿着部の端部付近で折れ曲がる心配は無く、このため、容器本体内から内容物を最後まで支障無く吸い出したり注ぎ出したりすることができる。

【0013】また、この充填容器には、取出具にストロー状の導管部が設けられていないので、容器本体内へ取出具を通して内容物を充填する際に、取出具の取出口部から注入された内容物は、挿着部の通路を通してその通路から直接的に容器本体内へ流入する。このため、例えばゼリー飲料などのように粘性のある内容物であっても、単位時間内に容器本体内へ充填される内容物の量がそれほど制限されず、内容物の充填速度を上げることができる。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、この発明の好適な実施形態について図面を参照しながら説明する。

【0015】図1は、この発明の1実施形態を示す取出具付き充填容器の一部破断正面図である。この充填容器は、可撓性を有するシート材によって上部開口の袋形態、この実施形態ではガゼット部を有する袋形態に形成された容器本体10、この容器本体10内に充填された内容物、例えばスポーツ飲料や果汁飲料あるいはゼリー飲料などの内容物を取り出すための取出具12、および、この取出具12の取出口に被冠されるキャップ14から構成されている。

【0016】容器本体10を形成するシート材としては、可撓性を有する材質のものであれば使用可能であるが、袋の強度や内容物の保存性などの点から通常、ポリエステルフィルムやポリエチレンフィルム、ナイロンフィルム等の1種もしくは複数種の樹脂フィルムとアルミホイルとを積層したものが使用される。また、シート材の最内層は、容器本体10の上部の開口部を封着する必要から、熱融着性を有する樹脂フィルムで形成される。

【0017】取出具12は、図2の(A)に下方から見た斜視図を、(B)に真下から見た図をそれぞれ示すように、取出口部16、挿着部18および補形部材20から構成されている。取出口部16は、円筒状をなし、外周面に、キャップ14を螺着するためのねじ22が形成されている。挿着部18は、取出口部16に一体に接続されており、中心部に、取出口部16に連通して貫通する通路24が形成されている。そして、挿着部18は、容器本体10の上部開口の内縁部と隙間無く密着するように、円筒外周面の左右両側を先細りに膨出させた外形に形成されている。また、補形部材20は、挿着部18に一体に接続されて挿着部18から容器本体10の内部に延在するように棒状に形成され、取出口部16に対応する円筒の周面の一部をその軸線方向に沿って直線的に切除し断面が円弧状をなすような形状を有している。補形部材20に軸線方向に沿って形成されている間隙26は、0.5mm以上であることが望ましい。

【0018】取出具12は、取出口部16が容器本体10の外部へ突出し補形部材20が容器本体10の内部に延在するように挿着部18が容器本体10の上部開口の内縁部に封着されることにより、容器本体10に一体的に取り付けられる。挿着部18は、容器本体10の上部開口の内縁部に封着されるため、容器本体10を形成するシート材の最内層と熱融着性を有する素材により、少なくとも挿着部18が形成される必要がある。また、補形部材20は、可撓性を有するシート材で形成された容器本体10が挿着部18の下端部付近で折れ曲がったりすることが無いように形態を維持する機能を有するものであり、このため、補形部材20は剛性を有する素材により形成される必要がある。これらの点を考慮して取出具12は製作され、例えば、取出具12は、ポリエチレン、ポリプロピレンなどのポリオレフィンにより取出口部16、挿着部18および補形部材20が一体成型され

て製作される。あるいは、取出口部16および挿着部18と補形部材20とが、ポリエチレンやポリプロピレンなどによりそれぞれ別々に成型された後、挿着部18と補形部材20とを一体に接合して、取出具12が製作される。

【0019】上記した構成を有する取出具付き充填容器にスポーツ飲料や果汁飲料あるいはゼリー飲料などの内容物を充填するときは、取出具12の取出口部16の上端口に充填装置の供給口(図示せず)を差し入れ、取出口部16から内容物を注入する。取出口部16から注入された内容物は、挿着部18の通路24を通してその通路24から補形部材20内へ流れ、補形部材20の間隙26から容器本体10内へ流入する。このため、例えばゼリー飲料などのように粘性のある内容物であっても、迅速に容器本体10内へ内容物が充填されていき、また、充填時に容器本体10内の上部に空気が溜って内容物の充填度が低下する、といったことがない。充填操作が終了すると、取出具12の取出口部16の上端口をアルミホイルなどのシール材28(図1参照)で封緘した後、取出口部16にキャップ14を装着する。

【0020】また、この充填容器から内容物を口で吸い出すときは、取出具12の取出口部16からキャップ14を取り外し取出口部16の上端口からシール材28を剥がした後、取出口部16を吸口として、容器本体10の外表面を指で押え付けながら容器本体10の内部を吸引する。これにより、容器本体10内の内容物は、取出具12の挿着部18の通路24内を通り取出口部16を通して吸い出される。この際、容器本体10内の内容物の量が減ってきても、容器本体10の外表面から取出具12の補形部材20を把持しておくことにより、容器本体10の形態が維持されるので、容器本体10が折れ曲がって持ちにくくなるといったことがなく、容器本体10内から内容物を最後まで支障無く吸い出すことができる。

【0021】一方、この充填容器から内容物を注ぎ出すときは、容器本体10を手で支え持って、取出具12の取出口部16が下向きとなるように容器本体10を傾けあるいは逆さまにし、容器本体10の外表面を指で押え付けるようにする。これにより、容器本体10内の内容物は、取出具12の挿着部18の通路24内へ流入し取出口部16を通して押し出され、容器本体10内に残留することなく全部が注ぎ出される。この際、容器本体10内の内容物の量が減ってきても、容器本体10の外表面から取出具12の補形部材20を把持しておくことにより、容器本体10の形態が維持されるので、容器本体10が折れ曲がって持ちにくくなるといったことがなく、また、容器本体10が取出具12の挿着部18の下端部付近で折れ曲がって挿着部18の通路24の入口が容器本体10内面で塞がれる、といったことがなく、容器本体10内から内容物を最後まで支障無く注ぎ出すことができる。

【0022】次に、図3の(A)に下方から見た斜視図を、(B)に真下から見た図をそれぞれ示した取出具30は、補形部材32が、長円筒を縦方向に半分に割って断面が半円状をなすような形状を有している。それ以外の構成は、図1ないし図3に示した充填容器と同じであり、同一部材には図2と同一符号を付している。また、図4の(A)に下方から見た斜視図を、(B)に真下から見た図をそれぞれ示した取出具34は、補形部材36が、長円筒の円弧面の幅寸法を細くして細長い板片状とされた形状を有している。それ以外の構成は、図1ないし図3に示した充填容器と同じであり、図3と同様に同一部材には図2と同一符号を付しているが、補形部材36は、細長い板片状に形成されていても、剛性を有していることが必要である。

【0023】

【発明の効果】請求項1に係る発明の取出具付き充填容器は、容器本体10へ取出具を通して内容物を充填する際に、例えばゼリー飲料などのように粘性のある内容物であっても、単位時間内に容器本体10へ充填される内容物の量がそれほど制限されず、内容物の充填速度を大きくすることができるので、充填作業の能率が向上することとなる。また、この充填容器は、取出具の構造が簡単であるので、その成型加工が容易であり、製造コストを低く抑えることが可能になる。

【0024】請求項2に係る発明の取出具付き充填容器では、取出具の形状が単純であり、取出具の全体を一体成型する場合などに、その成型加工が容易になる。

【0025】請求項3に係る発明の取出具付き充填容器では、棒状の補形部材を押し成型により製作することが可能になるので、製造コストをより低く抑えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の1実施形態を示す取出具付き充填容器の一部破断正面図である。

【図2】図1に示した充填容器の取出具の構成を示し、(A)が下方から見た斜視図、(B)が真下から見た図である。

【図3】図2に示した取出具とは異なる構成の取出具を示し、(A)が下方から見た斜視図、(B)が真下から見た図である。

【図4】図2および図3に示した各取出具とは異なる構成の取出具を示し、(A)が下方から見た斜視図、(B)が真下から見た図である。

【符号の説明】

10 容器本体

12、30、34 取出具

16 取出口部

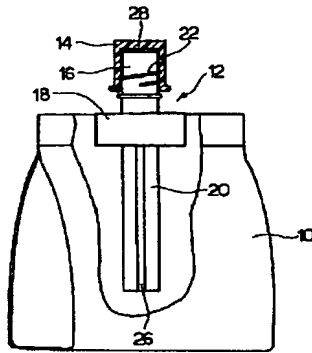
18 挿着部

20、32、36 補形部材

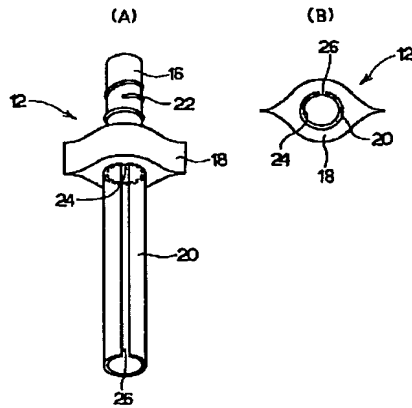
24 挿着部の通路

2.6 補形部材に形成された間隙

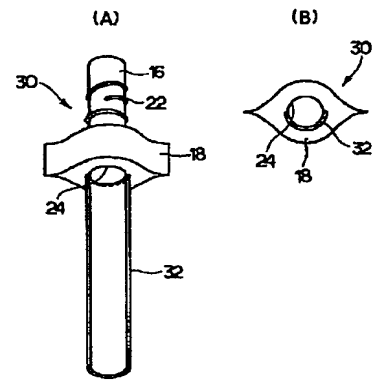
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

